

2022年3月期 決算説明資料

2022年5月12日

広島電鉄株式会社（証券コード：9033）

2022年3月期 連結経営成績

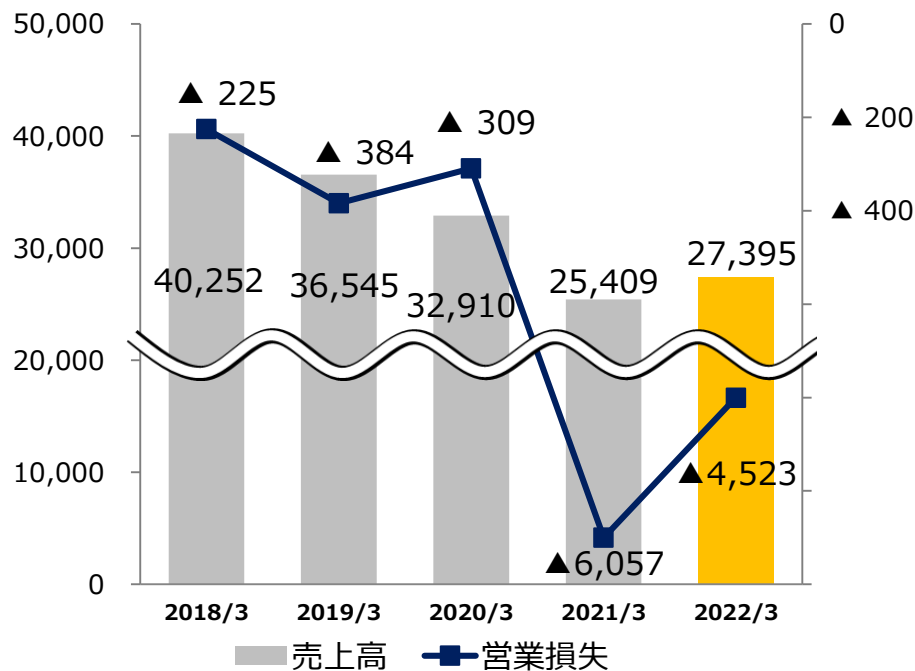
(百万円)

	2021年 3月期	2022年 3月期	増減 (%)	主な増減要因
売上高	25,409	27,395	+1,985 (+7.8)	不動産業では分譲マンションの完売等が寄与し増収、運輸業では輸送人員が大きく落ち込んだ前年に比べわずかに回復傾向も見られたが、引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け2期連続の経常損失を計上
営業利益	△6,057	△4,523	+1,533 (-)	
経常利益	△6,049	△4,447	+1,601 (-)	
親会社株主に帰属する 当期純利益	△3,291	△1,053	+2,238 (-)	特別損益は概ね前年並み 繰延税金資産の取崩しを行った前年度と比較して法人税等の減少
1株当たり 当期純利益	△108.51円	△34.70円	+73.81円	

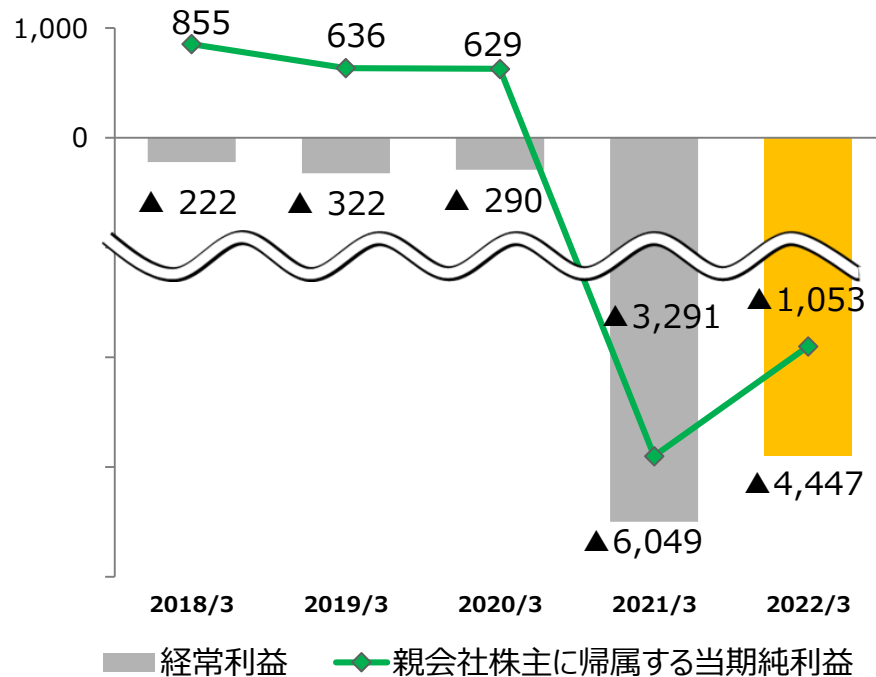
連結業績の推移

(百万円)

売上高・営業利益



経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益



連結貸借対照表(B/S)

(百万円)

	2021年 3月期	2022年 3月期	増減	主な増減要因
流動資産	13,473	12,938	△534	販売土地及び建物△1,150 受取手形、売掛金等+285
固定資産	78,648	79,565	+917	投資有価証券+972
資産合計	92,121	92,503	+382	
流動負債	22,558	23,451	+893	短期借入金+3,733 未払金等(支払猶予等)△2,510
固定負債	30,178	30,356	+177	長期借入金+1,146 その他の固定負債△811
負債合計	52,737	53,808	+1,071	
株主資本	14,237	13,903	△333	利益剰余金の減少
その他の包括利益累計額	24,157	23,910	△246	土地再評価差額金の減少
非支配株主持分	989	881	△108	
純資産合計	39,384	38,695	△688	
負債純資産合計	92,121	92,503	+382	

連結損益計算書 (P/L)

(百万円)

	2021年 3月期	2022年 3月期	増減	主な増減要因
営業収益	25,409	27,395	+1,985	
運輸業等営業費及び売上原価	25,028	26,005	+976	
販売費及び一般管理費	6,438	5,913	△524	
営業損失(△)	△6,057	△4,523	+1,533	
営業外収益	753	345	△408	受託工事収入△507
営業外費用	745	268	△476	受託工事費用△507 支払利息+24
経常損失(△)	△6,049	△4,447	+1,601	
特別利益	5,558	3,871	△1,686	受取補償金△805 工事負担金等受入額△215 新型コロナウイルス感染症に係る助成金△595
特別損失	2,220	654	△1,565	固定資産圧縮損△742 減損損失△605
税金等調整前当期純損失(△)	△2,711	△1,230	+1,480	
法人税・住民税及び事業税	113	29	△83	
法人税等調整額	615	△94	△709	前年度、繰延税金資産の取崩しによる影響
当期純損失(△)	△3,440	△1,166	+2,274	
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△148	△112	+35	
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△3,291	△1,053	+2,238	

連結キャッシュ・フロー(C/F)

(百万円)

	2021年 3月期	2022年 3月期	増減	主な増減要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,889	△1,121	△4,010	税金等調整前当期純損失の計上が減少したものの、支払を猶予されていた各種税金及び社会保険料の支払いが影響
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,939	△3,559	△620	宮島口整備事業に係る広電宮島口駅移設工事などの設備投資が影響
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,246	4,664	+3,418	有利子負債の増加が影響
現金及び現金同等物の増減額	1,196	△16	△1,212	
現金及び現金同等物の期首残高	4,013	5,210	+1,196	
現金及び現金同等物の期末残高	5,210	5,194	△16	

セグメント別経営成績①運輸業

(百万円)

	2021年 3月期	2022年 3月期	増減 (%)	主な増減要因
セグメント収益	14,782	15,228	+446 (+3.0)	
セグメント利益	△7,174	△ 6,422	+752 (-)	鉄軌道事業および自動車事業では引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたものの、経済活動の再開の動きに応じて輸送人員が増加し、大きく落ち込んだ前年度と比べ微増
運行補助金	2,292	2,244	△47 (△2.0)	海上運送業および索道業では宮島来島者の回復傾向が徐々にみられ、大きく落ち込んだ前年度と比べ微増
運行補助金を 含めた損益	△4,881	△ 4,177	+704 (-)	

セグメント別経営成績②流通業

(百万円)

	2021年 3月期	2022年 3月期	増減 (%)	主な増減要因
セグメント収益	1,300	1,241	△59 (△4.5)	廿日市市宮島口の観光商業施設「etto(エット)」の長期にわたる休業や、宮島口整備事業により宮島口平面駐車場を2020年9月に営業終了したことに伴う影響が大きく、減収
セグメント利益	△123	△ 55	+67 (-)	SA事業において時短営業対応による費用の削減効果もあり、前年度と比べ損失幅の縮小

セグメント別経営成績③不動産業

(百万円)

	2021年 3月期	2022年 3月期	増減 (%)	主な増減要因
セグメント収益	5,107	6,808	+1,700 (+33.3)	不動産販売業において、分譲マンション「ザ・府中レジデンス」が完売したほか、前年度に引き続き「hitoto広島The Tower」や「グリーンフォートそらの」の分譲販売を推進し、増収増益
セグメント利益	1,522	1,895	+372 (+24.4)	

セグメント別経営成績④建設業

(百万円)

	2021年 3月期	2022年 3月期	増減 (%)	主な増減要因
セグメント収益	4,666	5,439	+773 (+16.5)	当社グループ向け工事や、その他民間企業の工場や物流センターの新築工事などの民間工事の受注が増加し、増収
セグメント利益	166	203	+37 (+22.4)	

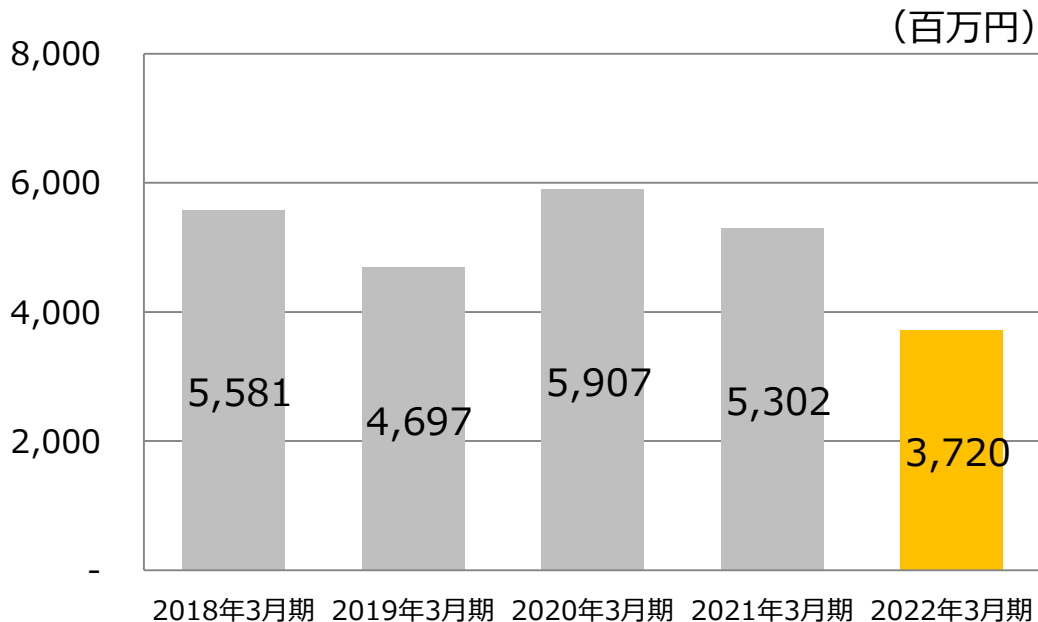
セグメント別経営成績⑤レジャー・サービス業

(百万円)

	2021年 3月期	2022年 3月期	増減 (%)	主な増減要因
セグメント収益	970	813	△156 (△16.1)	ゴルフ業では新たな会員制度の募集開始や、大会やイベントの開催など来場者の増加に努めた結果増収したが、前年度のホテル業の廃止に伴う影響により減収
セグメント利益	△432	1	434 (-)	前年度、新型コロナウイルス感染拡大を受けて不採算となっていたホテル業の廃止による増益

設備投資の状況（連結）

設備投資額の推移

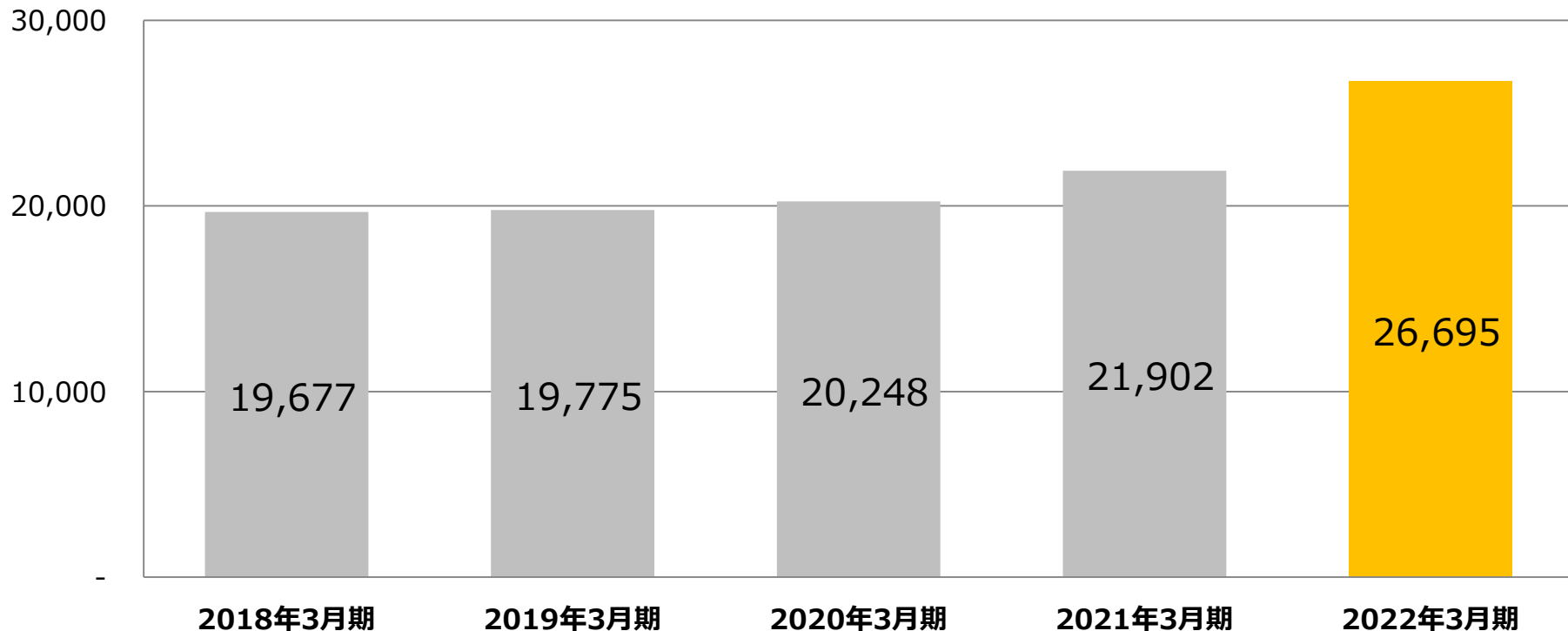


主な設備投資

広電宮島口駅移設工事(開発中)	1,253百万円
5200形グリーンムーバー-APEX 1編成購入	440百万円
自動車事業用車両 12両購入	268百万円
賃貸マンション「トランコート五日市駅前」新築工事	496百万円
新造船「伊都岐(いつき)」(宮島松大汽船株)	327百万円

有利子負債の状況（連結）

(百万円)



2022年度の主な設備投資予定（連結）

電車

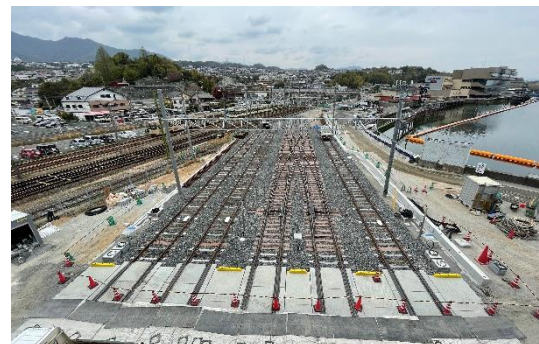
	導入数	金額
宮島口整備事業 ※2022年度完成予定		1,702百万円
5200形グリーンムーバーAPEX	1編成	440百万円
ICカード全扉乗降サービス (市内線接続車両一部ワンマン化対応)		150百万円

自動車

	導入数	金額
自動車事業用車両購入	25両	702百万円



▲広電宮島口駅新駅舎工事(2022年5月撮影)



▲広電宮島口駅軌道移設工事(2022年4月撮影)

2023年3月期 連結通期業績予想

(百万円)

	2022年 3月期実績	今回予想	増減 (%)	主な増減要因
売上高	27,395	28,750	+1,354 (+4.9)	コロナ禍における新しい生活様式を踏まえた企業や個人の行動の変化などによる影響を受けるものの、感染対策の実施やワクチン接種の進展等により国内を中心とした移動需要が徐々に回復していくと想定
営業利益	△4,523	△ 2,760	+1,763 (-)	
経常利益	△4,447	△ 2,780	+1,667 (-)	原油価格の高騰に伴う電動費及び燃料費の増加が予想されるが、増収に加え、運輸業における需要に応じたタイヤの見直しによる運営効率化やその他事業を含めた不要不急の経費の削減の徹底を継続することで経常収支が改善、さらに特別利益の計上も見込んでおり、黒字転換すると想定
親会社株主に帰属する 当期純利益	△1,053	590	+1,643 (-)	

連結業績予想の前提条件

【収入の見通し(セグメント別)】

セグメント	収 入 比 対 前 年	備 考
運 輸 業	+19%	鉄軌道及び一般乗合バスの輸送人員は、新型コロナウイルス感染拡大前の85%程度までの回復を想定 インバウンドを含めた観光需要や各種イベントによる人の移動はやや回復が遅れると想定
流 通 業	△18%	宮島来島者数、高速道路利用者数の回復を見込むが、下松SAの撤退に伴う減収を想定
不 動 産 業	△51%	2022年3月期に分譲マンション「ザ・府中レジデンス」全戸の販売収入を計上した反動により減収を想定
建 設 業	+18%	宮島口整備事業など当社グループ向け工事や、民間工事の受注増加を想定
レジャー・サービス業	+6%	ゴルフ業、ボウリング業での来場者数や会員数の増加、ジム業の開業に伴う増収を想定

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

【問い合わせ先】

広島電鉄株式会社

経営管理本部 経理部 経理課

TEL 082-242-3542